
上条当麻in涼宮ハルヒの憂鬱

白銀の勇者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

上条当麻 in 涼宮ハルヒの憂鬱

【Nコード】

N9667Z

【作者名】

白銀の勇者

【あらすじ】

この小説はもしも上条当麻が涼宮ハルヒの憂鬱の世界に来てしまったという物語です。

作者の初めての小説ですが、温かい目で見ていただけると幸いです。

はじめに(前書き)

今回は設定と大まかな作品の説明です

はじめに

この小説は、
もしも上条当麻が涼宮ハルヒの憂鬱の世界に、ハルヒの力でやって来てしまったらという話です。

何故上条が異世界に来てしまったかは、上条の幻想殺しで、相殺しきれずハルヒの力に負けて、異世界に来てしまった。
という設定です。

ちなみに、上条がハルヒの世界に来た時期は、フィアンマを倒し海をさ迷っている途中です。

上条は、とあるの世界の記憶は無くなっています。

そして、上条の幻想殺しは健在ですか、上条は幻想殺しの事を全く知りません。

上条の立場は異世界人の設定です。

説明が長くなりましたが、本編をどうぞ。

はじめに(後書き)

次回より、本編スタートです。

第1話 キヨンと上条の接触（前書き）

いきなり上条とキヨンが接触します。
少し短いです。

第1話 キヨンと上条の接触

「キヨンside」

俺の名前は

（本名）あだ名はキヨンだ。

って、オイ！作者！何故本名を公開しない！？

くそ、いつか本名公開するからな！

俺は今、今年から入学する北高校に向かって歩いている。

しかし、なんでこんな山の上に学校があるんだよ。

まったく、朝からなんでこんな山に登らなくちゃいけないんだよ。

ま、何日か経ったら慣れるだろ。

「上条side」

俺の名前は上条当麻。

そこらへんにいるいたって平凡な中学…いや、今日から高校生か。

まあ、変わっている所っていったら人より不幸って所かな。

俺は今、今年入学する北高校に向かって歩いている。

しかし、なんなんだよこの坂は。

しかもかなり長いし…

まあ、何日か経ったらなれるだろう。

つてなんだ？

空き缶？つてヤバい踏んでしまう。

なんでこんな入学当日に〜 不幸だ〜

〜キョンスイデ〜

ん？なんだ？

いきなり前の人が視界から消えた？

空き缶で転んだのか。

素通りするのも後味悪いし、

「おい、あんた大丈夫か？」

「ん？ ああ、大丈夫だ。」

〜上条スイデ〜

なんか知らない人に声かけられて返事したど、いい人みたいだな。

「今度から足元には気を付けろよ。」

「ああ、そうするよ。」

「じゃあ、俺は先に行くからな。」

なんかあいつとは、気が合いそうだな。

今度会ったら声かけてみるか。

くキヨンスイデく

なんかあいつとは気が合いそうな気がするな。

まあいい、早くクラスがどこか調べて席に座っていよう。

第1話 キヨンと上条の接触（後書き）

今回は、ハルヒの登場。

まだ、SOS団結成には時間がかかりそうです

第2話 ハルヒ登場（前書き）

ハルヒの登場です。

第2話 ハルヒ登場

〔上条side〕

俺は、坂で盛大に転んだ後、クラス表を見た後、クラスに行き、席について、始業式の時間を待っていた。

そして、俺は坂で会ったあいつを発見したので話しかけてみることにした。

「あんだ、朝に声かけてくれた人だろ？」

「ん？あ、お前は坂で転んでいた人か？」

「ああ、俺は上条当麻だ今後とも、よろしく。」

〔キョンside〕

朝のあいつは上条って言うのか。

しかし、同じクラスだったとはな。

「俺は、（本名）だ。中学ではキョンって呼ばれていた。」

つて、オイ！作者！また名前を伏せ字にするな！

「んじゃ、これからよろしくな。キョン」

ああ、上条もキョンと呼ぶのか

その後俺らは、適当に駄弁って時間を潰していた。

なんか上条には、いろいろ、不幸な事が起きていたが……

その後、始業式の時間になったため、俺らは、始業式に行き、午前中に学校が終わったため俺は、家に帰った。

↳上条side↳

俺は、家からでた後、朝の爽快感を満喫して……いるはずなのに、めっちゃくちゃ不幸な状態だった……

家を出た瞬間、野良犬に追いかけられ、水を、まいていたおばちゃんの水にぶち当たり、落ちていた空き缶で転んで、頭を強く打って、只今絶賛悶絶中だった。

朝から不幸だ……

「上条、大丈夫か？」

「キ、キヨンか……」

「なんだったら、手を貸すが。」

「だ、大丈夫だ。」

俺は、キヨンにそういつて結構ダメージが多いが立った。

「くっそ〜 朝から不幸だな」

「なんか、噛みつかれた後とか、上半身水浸しだし。」

「一体どんな朝だったんだよ……」

「聞くか？」

「いや、いい 聞いたらこっちまでブルーな気持ちになりそうだ。」

「そうか」

↳キヨンside↳

上条……お前、どんだけ不幸なんだよ……

やっぱり不幸体質なのか？あいつ……

そうこうしている内に、俺らは、学校についた。

その頃には、上条の上半身はなんとか乾いていた

そして、その後、上条と駄弁つっていると担任が入ってきた。

「俺がこのクラスの担任の岡部だ。」

どうやら、その後、聞いたら、ハンドボールバカらしく、ハンドボール部に入ったら即レギュラーらしい。

ま、しつたこつちやねーや。

「えー 今からみんなに自己紹介をしてもらう。」

それじゃ、出席番号1番から」

そして、何人かが自己紹介をして、俺の番がやって来た。

ついでに言うと、上条は自分の自己紹介の時に放送のノイズで自己紹介がかき消されていたな。

そして、俺は適当に自己紹介して席に座った。

そして、俺はあいつと出会った

（上条side）

まったく、なんだってんだ。
自己紹介中にノイズがはいるなんて。

不幸だ……

ん？キヨンの自己紹介は普通だな。

そして、次の奴が立った。

そこで、俺はあいつと出会った

「東中学出身、涼宮ハルヒ。

この中に宇宙人、未来人、異世界人、超能力者が
いたら私の所まで来なさい。 以上」

ここ、笑うところか？

しかし、なんだ？

超能力者と異世界人ってのに何かつつかかるな
何て言うか、前から当たり前のように接していたような、小さいこ
ろから知っている感じっていうか……

気のせいだろう。

俺は、そんな人間は今まで見たこと無いしな。

気のせいだ。気のせい。

さて、今日の飯。

弁当箱の中、悲惨なことになってなきやいいけど……

第2話 ハルヒ登場（後書き）

今年はこれで投稿終了です。
それでは、また来年。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9667z/>

上条当麻in涼宮ハルヒの憂鬱

2011年12月31日01時49分発行